府立野崎高等学校

学校経営推進費　評価報告書（２年目）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実→生徒の希望する進路の実現
評価指標	１進路決定率の向上 ２基礎学力の定着度を測る外部学力調査における生徒学力レベルの向上 ３授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上
計画名	**野崎高校　生徒全員Jump Up!作戦** **～ICT活用による授業改善と勉強しやすい体制と環境・雰囲気づくりにより、学力も進路実現もJump Up!～**

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	１　確かな学力への取組み （１）「わかる授業」「できる授業」により、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。 ア　学力の定着向上を図るための組織的な体制を構築し、ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究をすすめ、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。 イ　授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」を向上させる。 ※生徒の授業評価、学校教育自己診断における学習指導における指標の生徒評価を上げる。 ２　卒業後の進路を見据えた３年間のキャリア教育・進路指導の実施 （１）生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成するためのキャリア教育プログラムを実施する。 ※学校斡旋による進路決定率は常に100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に０%をめざす。
事業目標	・授業改善の取組みにより、「ＩＣＴを活用した授業」の充実を図り、「視覚や聴覚に訴える」「板書時間の削減」等に取り組むことで、座学授業はもとより実験・実習を含むすべての授業で「生徒が集中力を切らさず、みんな顔をあげている『わかる授業』『できる授業』」の構築をめざす。 ・それに加え、進路指導室に隣接した資料閲覧機能と自習室機能を合わせもった**「オープンラボ（仮称）」**と各学年職員室に隣接したいつでも質問のできる**「ミニサブリスペース」**を整備し、常に進路実現を意識し、勉強に取り組みやすい体制と環境・雰囲気づくりをすることにより、生徒一人ひとりの進路実現達成度を向上させる。（毎日活用） ・授業アンケート・学校教育自己診断の生徒の達成感・授業満足度を毎年５%向上させ、平成29年度末以降は80%以上を維持する。学校斡旋による進路決定率は常に100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に０%をめざす。
整備した設備・物品	（展開教室・普通教室へのICT授業のための環境整備）つりさげ式短焦点プロジェクター(20、うち１は電子黒板機能付き）、ルーター(20)、ボード型電子黒板（１）、教室持ち込み用タブレット(20) （勉強しやすい雰囲気づくり：オープンラボとミニサブリスペースの設置）マグネットホワイトボードシート（９）、デスクトップパソコン（３）、カラーレーザープリンター（１）、テーブル(12)、椅子(24)、ホワイトボード（３）、パネルヒーター（３）、スタンド(10)、風よけパーテーション（２）
取組みの主担・実施者	取組みの主担：Jump Up! PT（首席２名及び教職経験５年以上10年以下の教員25名の計27名、うち７名は運営委員会に所属、１名は情報主担） 取組みの実施者：全教員
本年度の取組内容	Jump Up! PTが主体となり次の①～⑤を実施。①府教育センター「パッケージ研修支援Ⅱ」：授業改善の組織化を目的として、「育てたい生徒像」から「めざす授業像」を考える教員全体研修（７月）、数学科による研究授業（９月、12月）を実施。②府教育庁「診断支援チーム」事業：Jump Up! PTの全メンバーを受講者とし、学校課題実践・評価を通して次世代ミドルリーダー育成と学校組織力向上を目的とする研修を年４回実施（８・10・12・２月）。課題の１つに「授業改善」を挙げパッケージ研修支援Ⅱと連動した取組みを展開。教員相互授業公開「OPEN CLASS」（１・２月）、観点別学習状況評価を組み入れた新シラバスの協働作成、教科スタンダード作成を見据えた教科会議定例化への体制づくり、学校教育自己診断の協働分析、成果測定に係る評価指標の開発などに取り組んだ。③大東市教育研究推進事業「学び合う授業づくり推進事業」:市内小中学校延べ９校での公開授業研究会に年間通じて延べ18名の教員が参加。④ICT利活用に係る生徒向け講演・教員向け研修：外部講師によるスマートフォン・SNS等のトラブル事例紹介を通してICTメディアの健全な利用を促進（２月）。⑤府教育センター指導主事によるICT授業動画撮影:教員４名の動画が府教育センターHP「動画でみるおおさかのICT活用事例」に掲載予定（H29年４月）。⑥オープンラボとミニサブリスペース：自習・講習・質問等、日常的な活用が定着。
成果の検証方法と評価指標	①授業アンケートにおいて、「授業を受けて、知識技能が身に付いたと感じる」「授業内容に、興味関心を持つことができたと感じる」を前年比５%向上させる。（平成27年度平均64.5%） ②学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」を前年比５%向上させる。（平成27年度61.3%） ③外部の基礎学力診断テストにおける生徒の学力レベルを前年比３%向上させる。 ④理由のない進路未決定率０%を維持する。（平成27年度０%）
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①７月（第１回）と12月（第２回）に実施した授業アンケートでは、「授業を受けて、知識技能が身に付いたと感じる」62.5%→64.6%、「授業内容に、興味関心を持つことができたと感じる」62.1%→63.5%に上昇した。前年度同様第２回で第１回を上回る評価となった。２項目の全体平均は63.2%で前年比－1.3%であった。生徒が評価を真剣に捉え、授業に対する意識や要望を高めた結果であると考える。（△） ②生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」は59.5%であった。学年別では１年55.7%、２年52.9%（１年次53.1%）、３年69.8%（２年次58.7%←１年次54.4%）。３年では経年変化で成果が見られたが、１・２年では今後の授業満足度向上が課題である。（△） ・教職員向け学校教育自己診断では、「コンピュータや視聴覚機器を授業で有効に活用している」が80.0%（前年度69.8%、＋10.8%）となり、教員によるICT活用が大幅に進んだ結果が反映されている。（◎） ③外部の基礎学力診断テストで学力レベルが前年比で向上した生徒の割合は、２年18.9%、３年34.6%であった。（◎） ④平成28年度の学校斡旋による就職内定率は100%、また、理由のない進路未定率は0.5%である。（○）
次年度に向けて	事業３年目の集大成として、府教育庁等による外発的な研修支援を受けずとも、Jump Up! PTを基盤に授業改善・学力向上・進路実現の取組みを深め、メンバーの内発的な動機づけにより持続発展させる。 ①OPEN CLASS：各学期に１回実施し、授業アイデアの交流・共有、学校全体としての生徒理解の底上げをめざす。初任者研修、インターミディエイトセミナー、アドバンストセミナー、10年経験者研修等に係る対象者の研究授業も計画に組み込み情報共有を図る。 ②研究授業の公開：各学期に少なくとも１回地域に公開し、小中高大連携による連続的学びの視点に立った授業改善に資するとともに、保護者等による外部評価の機会ととらえる。 ③評価と連動した授業改善：授業アンケート・学校教育自己診断の目的・項目づくりと協働分析を行う。生徒の授業満足度・学力向上度、教員の意識変容度・組織化度を測定する評価指標を開発する。 ④外部の基礎学力診断テスト：結果を校内独自に分析し、学力向上度を測定する成果指標として十分に活用する。 ⑤カリキュラムマネジメントの視点に立った教科横断的な授業改善：「育てたい生徒像」を踏まえ、総合的な学習の時間や行事等特別活動の内容を各教科の授業内容と連動させつつ学校総体として再構成し、先行実践把握・先進事例視察・教材開発を進めていく。